

## 鹿児島県指宿市南摺ヶ浜遺跡から出土した古墳時代人骨

Human Skeletal Remains of Protohistoric Kofun Period from Minamisurigahama Site,  
Ibusuki, Kagoshima, Japan

竹中正巳\*・下野真理子\*・新里亮人\*\*

Masami Takenaka, Mariko Shimono, Akito Shinzato

\*鹿児島女子短期大学 \*\*鹿児島県伊仙町歴史民俗資料館

抄録：鹿児島県指宿市に所在する南摺ヶ浜遺跡の2007年度の発掘調査で壺棺墓から3体、円形周溝墓から1体、土坑墓から1体の合計5体の人骨が出土した。いずれも保存状態は悪い。年齢の推定を行ったところ、南摺ヶ浜遺跡では壺棺墓は子供の埋葬に用いられたことが、円形周溝墓や土坑墓は成人の埋葬に用いられたことがわかった。

**Key words**：南摺ヶ浜遺跡、弥生時代後期、古墳時代、古人骨、歯

### 1. はじめに

南摺ヶ浜遺跡は鹿児島県指宿市十二町字黒ヶ丘に所在する。同遺跡は縄文時代から古墳時代にわたる複合遺跡であり、弥生時代後期から古墳時代にかけては集団埋葬墓地として使われ、現在までに壺棺墓16基、甕棺墓1基、円形周溝墓12基、土坑墓72基、立石25基が見ついている。

南摺ヶ浜遺跡の2007年度の発掘調査で、壺棺墓や円形周溝墓、土坑墓から人骨が出土した。本稿は、その際に出土した人骨について人類学的精査を行った結果を報告する。

### 2. 資料および方法

本研究に用いた資料は鹿児島県指宿市南摺ヶ浜遺跡から出土した弥生時代後期から古墳時代にかけての人骨である。内訳は、壺棺墓から出土した人骨3体（1号・4号・9号壺棺墓から出土）、円形周溝墓から出土した人骨1体（6号円形周溝墓より出土）、土坑墓から出土した人骨1体（43号土坑墓より出土）である。

### 3. 結果および考察

#### ・1号壺棺墓から出土した人骨（性別不明・新生児～幼児）

出土した人骨は小骨片ばかりで、総重量3gのみが遺存している（図1）。骨片の大きさは、大きいものでも1cm×1cmに満たないものばかりである。人骨の保存状態は悪い。また、火を受けた跡は認められない。

遺存している骨の中で、同定できる部位は頭蓋のみである。性別は判定できる骨の部位が遺存していないため、判

定できない。年齢は、頭蓋片の厚さが厚いものでも1mm強しかなく、この所見から幼児期までの年齢であった可能性が考えられる。

#### ・4号壺棺墓から出土した人骨（性別不明・幼児）

歯だけが出土した。上下顎の第二乳臼歯4本の歯冠（図2）と他の歯のエナメル質が遺存していた。保存状態は悪い。遺存している歯に火を受けた跡は認められない。

歯種を同定できた上下顎の第二乳臼歯は咬合面に咬耗の痕跡がエナメル質の表面にわずかに認められる。咬耗の程度はMartinの1度である。咬耗の痕跡があることから、上下顎とも第二乳臼歯は既に萌出していたはずで、3歳前後の幼児と判定される。性別は不明である。

#### ・9号壺棺墓から出土した人骨（性別不明・幼児）

やはり歯だけが出土した。下顎左第一乳臼歯の歯冠と他の歯のエナメル質が遺存していた。保存状態は悪い。遺存している歯に火を受けた跡は認められない。

歯種を同定できた下顎左第一乳臼歯の咬合面にやはり咬耗のわずかな痕跡が認められる。咬耗の程度はMartinの1度である。咬耗の痕跡があることから、少なくとも第一乳臼歯は既に萌出していたはずで、1.5～3歳の幼児と判定される。性別は不明である。

#### ・6号円形周溝墓から出土した人骨（性別不明・成人）

6号円形周溝墓の主体部から、やはり歯のエナメル質だけが出土した。保存状態は悪い。遺存している歯に火を受けた跡は認められない。下顎大白歯の歯冠が3片確認できたが、下顎大白歯の内のどの歯のものなのかは同定できな

かった。下顎大白歯の歯冠エナメル質の3片はいずれも咬合面を含む破片で、咬耗していることがわかる。咬耗の程度から推測すると、少なくとも成人には達していたと考えられる。性別は不明である。

#### ・43号土坑墓から出土した人骨 (性別不明・壮年～熟年)

やはり歯だけが出土した。下顎左第一大臼歯の歯冠と他の歯のエナメル質が遺存していた(図3)。保存状態は悪い。遺存している歯に火を受けた跡は認められない。

歯種を同定できた下顎左第一大臼歯の咬合面は咬耗により咬頭は落ち、平坦になっている。咬耗の程度はMartinの2度である。咬耗の程度から、年齢は少なくとも壮年には達しており、壮年から熟年と判定される。性別は不明である。

## 4. 考察

### ・1号壺棺墓の埋葬

出土人骨の所見から、1号壺棺墓に埋葬されたのは新生児期から幼児期の間の年齢の子供と考えられている。性別は不明である。

1号壺棺墓で用いられた壺は、脚部が折れた高坏形土器を蓋にしていた。この墓の周囲には立石が斜めに立った状態で検出されている。本体の壺は器高72.3cm、最大径46.4cm、口縁径26.6cm、底径4.7cmを呈する壺形土器であり、頸部の最小径は約17cmである。頸部最小径よりこの場所での円周を計算すると約53cmとなり、新生児の頭圍の平均34cmを上回る。したがって、産後間もない時期の新生児から幼児期までの遺体はこの壺本体に納めることが十分に可能と考えられる。

このような壺への埋葬の場合、亡くなった直後に埋葬に用いたものなのか、それとも白骨化した後の2次葬としての再埋葬に用いた壺なのかが問題になる。本例は、壺の中には少量の土が残っていただけであり、土の上に頭蓋片が遺存していただけであった。器高が72.3cmあり、乳幼児の白骨化した骨を納めるには大きい。死亡直後の埋葬にはちょうどいい大きさであることを考えると、本壺棺は乳幼児期までの子供がこの壺に、亡くなった直後に埋葬された可能性の方が高いと考えられる。

### ・4号壺棺墓の埋葬

4号壺棺墓には、出土人骨の所見から3歳前後の幼児が埋葬されていた。性別は不明である。

4号壺棺墓も、やはりすぐ横に立石が横たわり、その立石の床着とほぼ同じレベルで壺棺が検出された。壺は器高58cm、最大幅41cm、底径6cmを呈する。壺棺の頸部から

胴部にかけて、何らかの原因で壊れた土器片が壺の横にあり、土器の上部には土が充填され、埴形土器が口縁を上にして置かれていた。

本壺棺への埋葬についても、1号壺棺墓同様、亡くなった直後に埋葬されたのか、それとも白骨化した後の2次葬としての再埋葬されたのかが問題となる。本例の壺の中には土が充填していた。器高は58cmとそれほど大きくないが、壺の頸部から胴部が大きく壊されており、3歳前後の幼児の遺体であれば、窮屈ではあるが、屈位の姿勢でなんとか納められたはずである。決め手には欠くが、死亡直後の埋葬にやはり本壺棺は使われた可能性の方が高いように思われる。

### ・9号壺棺墓の埋葬

9号壺棺墓には、出土人骨の所見から1.5～3歳の幼児が埋葬されていた。性別は不明である。

9号壺棺墓は南摺ヶ浜遺跡で最大級の立石とそれに近接する土器の下から検出された。壺棺は口縁部を斜め上部にしている。器高は70cm、最大径が46cmで、口縁部が打ち欠かれていた。打ち欠かれた口縁部には壺形土器の胴部から底部が被せられ、蓋として使われていた。

本壺棺への埋葬についても、亡くなった直後に埋葬なのか、それとも白骨化した後の2次葬としての再埋葬なのかが問題となる。本例の壺の中には土が充填していた。器高は70cmと大きく、壺の口縁部が壊されており、1.5～3歳の幼児の遺体であれば、屈位の姿勢で納められたはずである。決め手には欠くが、死亡直後の埋葬にやはり本壺棺は使われた可能性の方が高いように思われる。

### ・6号円形周溝墓の埋葬

6号円形周溝墓の主体部には、出土人骨の所見から、少なくとも成人に達した人物が埋葬されていた。性別は不明である。

6号円形周溝墓の主体部は、長楕円形の土坑で、長径1.6m、短径0.8m、深さ0.3mを呈す。墓内に遺物は遺存していない。主体部土坑内に遺存していた歯の所見から、性別は不明であるが、少なくとも成人に達した遺体が埋葬されていたことがわかる。主体部土坑の大きさも成人の埋葬に用いられた墓として矛盾しない。

### ・43号土坑墓の埋葬

43号土坑墓には、出土人骨の所見から、壮年から熟年期の人物が埋葬されていた。性別は不明である。

43号土坑墓は楕円形の土坑墓で、長径2.05m、短径0.9m、深さ0.15mを呈す。墓内に遺存していた歯の所見から、性別は不明であるが、壮年から熟年の遺体が埋葬されていた

ことがわかる。墓の大きさも成人の埋葬に用いられた墓として矛盾しない。

・出土人骨からみた南摺ヶ浜遺跡の埋葬

遺存していた人骨の年齢と壺棺墓、円形周溝墓、土坑墓の壺や墓の大きさを対応させると、壺棺墓には幼児期までの人物が、円形周溝墓や土坑墓には成人期の人物が埋葬されていたことがわかる。円形周溝墓の主体部や土坑墓の大きさも成人の埋葬に用いられた墓として矛盾していない。

すべての墓から人骨が出土したわけではないので、断定はできないが、南摺ヶ浜遺跡では壺棺墓は子供の墓であり、幼児期までの年齢の子供の埋葬に用いられた可能性が考えられる。また、円形周溝墓や土坑墓で成人遺体が埋葬可能な規模の墓は、大人の埋葬のための墓であり、成人の埋葬に用いられたと考えられる。

## 5. 参考文献

- 1) 鹿児島県立埋蔵文化財センター：南摺ヶ浜遺跡、鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（144）、鹿児島県立埋蔵文化財センター、2009

（平成26年1月10日 受理）

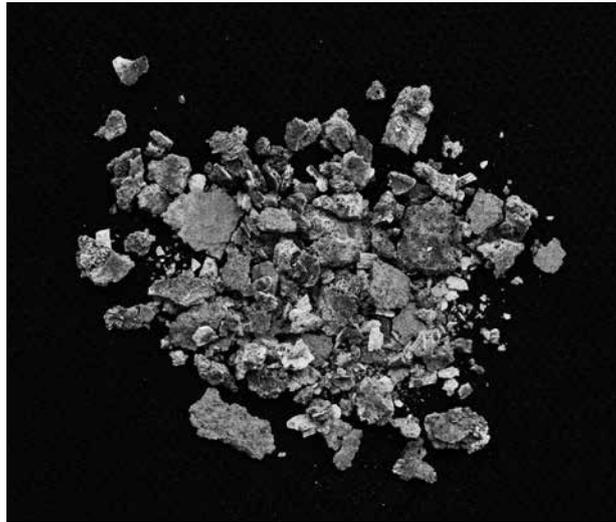


図1 南摺ヶ浜遺跡1号壺棺墓から出土した人骨（性別不明・新生児～幼児）



図2 南摺ヶ浜遺跡4号壺棺墓から出土した人骨（性別不明・幼児3歳前後）



図3 南摺ヶ浜遺跡43号土坑墓から出土した人骨（性別不明・壮年～熟年）